
ソラミミファド

這沢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ソラミミフアド

【Nコード】

N0268P

【作者名】

這沢

【あらすじ】

掃いて集めた詩です。

いつも通り捨てようとしていたところ、魔が差しました。

この掃き溜めの中に、鶴はいません。炭と化した焼き芋ならあるかもしれません。

ソラミミフアド

夢路の際に沿って
招かれた場所まで
彩度の上がる丘を蹴上がり
遙かな気流まで一足飛び

キミの見せた幻灯が
試練から試練の啓示なら
ちらと差し込む花園に
明日なき音を忍ばせて

醒めて奥底に沈む夜
澄んだ青は不確かな青へ
褪せた花卉がささやいた
「飽くなき探訪は可能か」と

夢路の際に沿って
招かれた場所まで
彩度の上がる丘を蹴上がり
遙かな気流の先にある音は

ソラミミフアド
ソラミミフアド
キミの下に

草を乱して無意識を洗い

ソラミミフアド
ソラミミフアド

千々に散らす

露草に似た色へ染め替えて

夢路の際に沿って

招かれた場所から

太古の唄を連れて戻るよ

囚われのキミを解き放ち

ruler

縁をかたどるのは 如何なる方法で？

ねじれた器の 何処へ水を注すの？

逸脱のラインに惹かれ 声の誘うほうへ

「内に収める悦びを取りもどせ」と

外部のキミから 内部のキミへ

曖昧な線引きで境界線を溶かし

単純な裏表を取って代われたら

元に戻るのなら このrulerで

統合を唱えよ 整合を求めよ キミが消えぬうちに

海の向こうで呼ぶ大陸に応え

聖なる水をフォーマルハウトに注ぐ

脱出のルートを示す キミへの合図に

「内に収める悦びを取りもどせ」と

外部のキミから 内部のキミへ

雑踏に阻まれず たどり着け

身体を着替えるように何度でも

キミを呼び覚ます このrulerで

統合を唱えよ 整合を求めよ キミが生きるままに

手招く地図

電線と近くの空を往き来して
巢立ちしたての子ツバメが
未知に招かれ旅立つ日
空に湧く際限なき雲は
遠くに行ける道標

なるたけ遠くに行きたいと
誰より遠くへ行きたいと
お宮参りの願掛けに
気もそぞろな迷い子が

乗りこなせぬ身体で空路図を描き
使いこなせぬ頭で路頭に迷う
ツバメよ それでは遠く行けまい
誰よりも遠く行けまい

沿線は南で絶たれ悲観的
術を持たない子ツバメが
地図にその身を委ねた日
雲はつかの間をめぐらせて
遠く絵解きを退けた

なるたけ遠くに行きたいと
誰より遠くへ行きたいと
道理至極の道の上
手招く地図は微笑んで

乗りこなせぬ身体で空路図を描き
使いこなせぬ頭で路頭に迷う
ツバメよ それでは遠く行けまい
誰よりも遠く行けまい

有りもせぬ如何様が親切に
頼みもせぬ詳細を携えて
ツバメよ 無きものとして振舞えよ
気違い呼ばわりされたとして

ミクロからの展望

「ハナムグリ」

わたしは岩

わたしは風

わたしは甘い蜜

あなたが纏う外界で

わたしは何を演じているのでしょうか

かわいい誤解や錯覚も

必要なものとして受け入れたいのに

お互いの中のお互いは

時に悲しい結果を招くだけ

岩はあなたを妨げない

風はあなたを退けない

蜜はあなたを騙さない

そのようなものは

はじめから存在しなかったというのに

「パラシュート」

風の橋を降りてきて
わたしの手の平でおやすみ

次に橋が架かるのは
君を野に放つとき

羽は軽く 風に乗る
往ってしまえよ 望む場所へ

空にこそ映える君の姿
風にこそ映える君の姿

「彼岸花」

川面を流れる何千もの花は
夏の残り火と共に散った

僕は君を見ず
夜目の道標としてあぜ道を行き
君は僕を見ず
対岸に心を渡らせた

僕らは同時不在のまま
道から湧き立つ花の色も見ずに

Love is a lie

曲がり角を過ぎて 扉あければ午前2時
ダウンライトの影おちる 凍てついた表情^{かお}で
笑うあなたがイヤ わたしの気持ち見透かして
誘う手口がイヤ 知っているのに拒めないキス

Love is a lie.

I don't want to admit love.
咲かせた薔薇^{ぬかるみ}を泥濘^{ぬかるみ}の中へ

あなたは「それでいい」と言うのね

逃げ腰な本音 コメントしてnoでもyesでも
ただわたしの中 逃げるあなたはズルイヒト
堕ちたわたしがイヤ あなたの気持ちが見えなくて
試す弱さがイヤ 気のない振りで終わらせるキス

Love is a lie.

I don't want to admit love.
散らせた薔薇^{ぬかるみ}は泥濘^{ぬかるみ}の中に

あなたは「それでいい」と言うのね

スウィンバーンなら冒涔^{ぼうとく}だというわ
神様にだって救いようが無いのよ

祈り

山陰に灯がともる頃
背負う重みと南方を望む
後ろに回した両腕は君を
前に回された両腕はこの身を抱いて

山頂から輝線が突き抜ける
世にも美しい轟音を立てて
雲をかいくぐり
天蓋を突破し
星と見紛う瞬間まで
強く 儚く

君よ 君よ 心に留めていて
どうか 忙しない日々はここに預けて
去り往く時代の風景を
どうか 心に留めていて

いつか祈りに満ちた塵となり
君の中を漂えば
昨日の一步のイメージが
明日をかたどるように

山頂からの架け橋は昇る
光線と轟音を引き連れて
雲をかいくぐり
天蓋を突破し
星と見紛う瞬間まで

強く 儚く

君よ 君よ 心に留めていて
どうか 忙しない日々はここに預けて
引き継ぐ時代の情景を
どうか 心に留めたまま

信心の門は見えたか？

月が垣間みせる意志は
悠久のアースに繋がれて
おちた影と荒廃にひそみ
迷える君を後押し

目を閉じて夜道をゆけよ
見えぬ一路に立ち尽くし
精密に風を切り開くとき
暗闇に冴えた視野が

あれは無人発電ディーゼルが
百のゲートを抜ける音
過ぎた日々を黒煙で流し
胸の鼓動に載せ換えて

目を閉じて夜道をゆけよ
夜露につつまれる月桃の
明晰な芳香を利けば
暗闇の冴えた視野へ

信心の門を躊躇ためらわずくぐり
明日はより良き人へ より悪しき人へ
君は何者かになるために

信心の門を躊躇わずくぐり
それは歓喜へと または失望へと
君を待つ次の門へとまた

上り列車

行き過ぎる列車の君は
いつか見た日の残像
平野に降り立つ渡り鳥
迫る夕闇に急かされて

安住の地を求め渡り
街が去る車窓には
家路を目指した若者が
染まる夕日に歩を溶かし

ああ 独り残して
ああ 駅を行き過ぎ
在りし日の君は二度と見えない

上る 過ぎる はやる 列車の暴走
心残り捨てて 来た道も忘れ
半ば過ぎて現在を見渡せば
無限の彼方へ運ばれて

ああ 君が居れば
もう 謎は解けたと
在りし日の問いに答えるのに

尚も 過ぎる はやる 列車の暴走
心残り捨てて 来た道も忘れ
過去に未来に現在は何処にも無く
無限の彼方へ運ばれて

C o m p l e x

ああ また

一等弱いところが何処なのか
神様はよくご存知

でも まだ

繰り返す痛みの意味を知らずに
不可思議をさまよう

わたしの厄介者が

小さく ふ・る・え・る

いつまでも きみが

ここにいて いいの？

ハートまで響く衝動に

的確に狙われて

何度受けても 胸が痛いよ

もう 全部なくなればいいのに

ああ もし

繰り返す痛みが神様の配慮なら
立ち上がる時間を下さい

わたしの厄介者が

小さく う・な・ず・く

いちばんの 弱さ

手強さに 変えて

ハートまで響く衝動を

あと何回受け止めたら

きみを越えるの？ 歩き出せるの？

もう 明日は確実にB y e B y e

……ああ また

e l e v e n

冴えた月夜に影を伸ばし

約束を交わしに行こう

無縁なボクたちのひとり歩き

無縁なキミたちのひとり歩き

互いの影は並び立ち

時には重なり連れ立って

今や祖母なる大地は流血し

期限切れかと憂える人々

「交わした約束はまだ生きている」

「交わした約束はまだ生きている」

いにしえより到来する声が聞こえないのか

それでも等しく降る陽に身を委ね

大気を分け合う者として

無縁なボクたちはひとり歩き

無縁なキミたちはひとり歩き

生まれて間もない子供から

余生を数える患者まで

万象で繋がる輪の中に

終りも無ければ始まりも無く

「交わした約束はまだ生きている」

「交わした約束はまだ生きている」

いにしえより到来する影の声は響いて

e l e v e n (後書き)

以上、全十篇をもって一括りと致します。

今までお読み頂き、ありがとうございます。

感謝致しております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0268p/>

ソラミミファド

2011年10月9日19時17分発行